



お住まい拝見

1月30日～
2月5日

-第1209号-

東シナ海眺める3層の家

Hさん宅

2階リビングからダイニング・キッチンを見る。
横長の開口からは東シナ海が見え、自然と人が集まる

撮影:高野生優(フォートアートたかの)

サトウキビ畑が広がる西海岸ののどかな集落。その一角にあるのが、Hさん(43)宅。「野菜やハーブ作りを楽しみたい」との思いから、菜園を広く取り、コンパクトな3階建てに。2階に配したダイニング・キッチンからは東シナ海が見え、遊びにくる人も多い。自然や地域とのつながりを身近に感じる住まいで、家族4人、心豊かに暮らしている。

取れたて野菜、食卓へ

沖縄の文化や自然に引かれ、14年前に移住したHさん一家。「子どもたちが道端でも遊べるだらかな雰囲気や、地域の人々の強い結びつきは、心穏やかに暮らしたいわたしたちにとって理想的なものでした。それもあって、定住を決意したんです」と振り返る。

設計は、夫人が東京に住んでいたころに所属していた沖縄県人会で知り合った建築士に依頼した。「海が見えて、十分な菜園スペースが取れる広さの土地を、建築士と一緒に探しました。幸い、移住して以来、慣



子どもたちや来客が集まる2階ダイニング・キッチン。あめ色になったヒノキの床は、夫人が米

れ親しんだ地域で見つけることができました。ぬかで毎日手入れしている。キッチンは足元を一部くり貫くことで、ダイニングとのつながりを演出した。

Hさん宅を印象付けるのが、アプローチ隣にある約10坪の菜園と、東シナ海が見える2階のダイニング・キッチン。壁や天井に施されたケイソウ土やヒノキの床など、室内は自然素材ならではの優しい質感が漂う。夫人は「菜園から取ったばかりの野菜やハーブでよく料理をしますね。子どもたちも、明るくて開放的なダイニングが気に入っているのか、宿題をここで済ませるんですよ」とほほ笑む。

2階にある吹き抜けのリビングは、夫人が営むアロマ教室のスペースとしても使用。その一角にある畳間は、行事のときは三線や太鼓を披露する舞台に早変わり。2階と3階を結ぶ階段の踊り場は、壁一面に本棚を造り付けたパソコンコーナーにしたり、3階の子ども室のロフトを拡大しベッドに充てるなど、空間を有効に使うための工夫も目を引く。

2年前に行われた新築祝いには、Hさんの職場の同僚をはじめ、地域の人々も集まり、大にぎわい。「家ができ、この地域に住まわせてもらっていることへ、ただ感謝です。住んでいるわたしたちもそうですが、訪れる人も楽しめる家にしていきたい」と、夫妻はそろって目を細めた。



外観。砂利敷きの駐車場の背後に約10坪の菜園を確保。縦長の開口越しに階段を行き来する家族の様子がうかがえる

建築データ

家族構成: 夫婦、子ども2人	設計: (有)義空間設計工房
敷地面積: 316.26平方メートル(約95.7坪)	伊良波 朝義
1階床面積: 50.4平方メートル(約15.2坪)	構造: ケイ・ツー設計
2階床面積: 50.4平方メートル(約15.2坪)	設備: (株)設備計画
3階床面積: 28.3平方メートル(約8.6坪)	建築: (有)大協建設
建ぺい率: 18.01%(許容60%)	電気: (有)アート電気工事社
容積率: 40.82%(許容200%)	水道: (有)良政産業
用途地域: 未指定地域	ガス: 比謝川ガス(株)
躯体構造: 鉄筋コンクリート造	キッチン: (有)モブ
	造園: 池原グリーン

快適つくる
裏方さん

外とつなげ空間に豊かさ

伊良波朝義1級建築士に聞く設計のポイント



3階子ども室。ベッドスペースはロフトに確保し、可動式収納で2室に仕切れる。ペランダは、仕切った際に階下と行き来するための廊下にもなる



2階と3階を結ぶ階段の踊り場に設けたパソコンコーナー。壁面いっぱいに本棚を造り付け、空間を余すことなく利用した



1階浴室からバスコートを見る。上部に入った横スリットが屋外のような雰囲気を醸し出す。芝庭からも直接出入りできる

屋外では、菜園で野菜やハーブ作り、室内では海と空の眺めがそれぞれ楽しめるHさん宅。建築面積が約15坪とは思えないほど、室内は高さや広さ、明るさに富んだ空間になっている。

Hさん宅の設計では、屋外に菜園と4台分の駐車スペースを確保したことから、建物はコンパクトにする必要がありました。また敷地西側にある隣家とは、2階分の高さがあれば海が見える位置関係にありました。

そこで建物は3階建てとし、生活に必要な部屋の確保と、眺望が楽しめる間取りを考えていきました。

1階を夫婦の寝室や浴室、2階をLDKや畳間、3階を子ども室に充て、玄関から内階段で直接各階に行ける造りとする事で、公私の空間を階層で分けつつ、住む人と来客が互いに気兼ねなく行き来できるようレイアウト。

1階は屋外とのつながりを考え、浴室隣にシャワー付きのバスコートを設置。菜園や海水浴でついた泥や砂を洗い流せる造りにしています。また屋根付きのサービスコートは、石けんを手作りする夫人のための作業スペースでもあります。

2階西側にはダイニング・キッチンを配し、開口はフルオープンサッシで、東シナ海を眺めながら料理や食事が楽しめるよう配慮。ペランダにデッキを敷くことで室内の延長として使え、実際の面積以上の広さを感じられます。リビングは吹き抜けを通じて、2・3階で家族の声や様子が分かる造りに。畳間は床より35?ほど高くすることで、ダイニングに居る人との視線がそろい、会話しやすくなります。

道路に面した敷地北側は、外からの視線がさほど気にならないよう階段室を配して開口を縦長に取り、室内からは菜園の様子が、道路からは階段室の様子がそれぞれ少し見えるようにし、建物の閉じた印象を和らげました。

菜園の水やりはこう配屋根で集めた雨水で賄っているほか、建物のふく射熱を防ぐため、屋根と外壁に遮熱性の高い塗料を施しました。

家族間はもちろん、自然や地域とのつながりが感じられる住まいとすることは、住む人自ら、そして景観にも豊



新築祝いの様子。畳間が格好の舞台になっている(写真提供・Hさん)

かさをもたらしてくれると考えます。

リビングとDKにひと工夫

来客時は収納引き戸で仕切る

1つの空間を多目的に使える造りにしているのも、Hさん宅の特徴。

普段、リビングとダイニング・キッチンオープンに使っているが(上写真)、夫人がリビングでアロマ教室を行う際は、引き戸で仕切れようにした(下写真)。

設計者の伊良波さんは「リビングを引き戸で仕切れるようにした方が、お客さんも住む人も気兼ねしないで済みます。引き戸は使わないときは戸袋にすっきり収納できる造りにしています」と話す。そのほか、3階子ども室の吹き抜けに面した部分も、引き戸でさっと目隠しできるよう配慮されている。

来客の多いHさん宅のライフスタイルにフィットさせたスマートな仕切りの工夫が光っている。



(有)義空間設計工房 / 電話: 098-888-5303 <http://www.gikuukan.com/>



人と暮らしの間に
創刊60年 沖縄タイムス 購読申込みはコチラ



(株)タイムス住宅新聞社・週刊「タイムス住宅新聞」編集部
画像及び文章の無断転載・無断引用・販売などは固くお断りします。
Unauthorized redistribution of my data is strictly prohibited